

久喜市における学校動物飼育の取組について

埼玉県久喜市教育委員会学校教育課

1 はじめに

埼玉県久喜市は、県の東北部に位置し、人口約7万4千人、小学校10校、中学校4校の田園文化都市である。住民は、教育に対して関心が高く、2年制の市民大学と大学院や4年制の高齢者大学など、生涯学習が盛んなまちで、たくさんのボランティアがさまざまな形で小中学校の教育活動を支援している。

市内に在住する獣医師は6人で、学校教育活動に対し、大変理解があり協力的である。

2 学校動物飼育体制の確立

(1) 学校動物飼育の問題点

平成14年の秋に、ある学校の飼育活動にボランティアとして関わっていた人たちから次のような指摘を受けた。

- ・ 避妊していないためにウサギが27匹もいる学校がある。飼育舎の広さに対してこれでは増えすぎである。けんかやトラブルも多い。
- ・ 古いえさが置かれている。また、休日に水もえさも無いときがある。
- ・ 床に傾斜がつけてないため、水がたまりやすく、ウサギの足裏に傷ができやすい。
- ・ 雨が入りやすく、水はけも悪い。
- ・ エサやりや飼育動物の扱い方等、教員の認識が不足している。
- ・ 飼育舎にふさわしくない動物（軍鶏、アヒル、孔雀等）を飼っている。

(2) 教育委員会の取組

指摘を受けて、各学校の実態を調査したところ、学校によっては、動物飼育の状況が決してよい環境ではないことが分かり、動物飼育の問題点を認識した。

そこで、次の方針の下に取組を進めることとした。

<改善の方針>

- ・ 飼育舎の環境整備
- ・ 飼育方法の改善
- ・ 動物飼育に関する教職員の意識の改善
- ・ 保護者・地域への啓発

<実際の取組>

- 学校動物飼育研修会の発足と研修
教職員、獣医師、ボランティア等対象
講師：中川美穂子氏（日本小動物獣医師会学校飼育動物対策委員会副委員長）

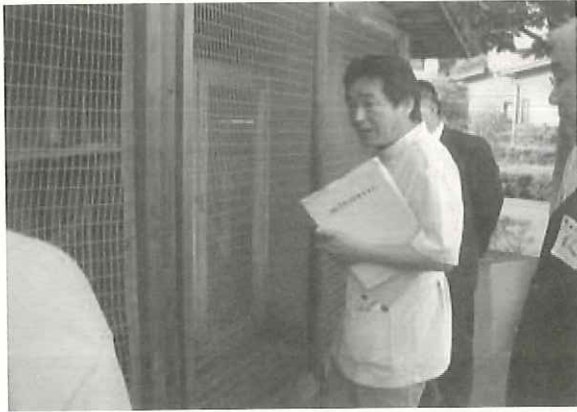
平成14年・15年・16年と毎年実施

- 獣医師との連携の確立
獣医師6人と契約を結び、獣医師との連携体制を構築。各学校毎に担当獣医師を決める。

NO	獣医師氏名	学校名
1	S・S	本町小学校 久喜北小学校
2	T・M	太田小学校 久喜中学校 太東中学校
3	T・T	青毛小学校 久喜東小学校
4	T・O	久喜小学校 江面第一小学校 中央幼稚園
5	H・S	江面第二小学校 清久小学校
6	S・S	青葉小学校 久喜東中学校 久喜南中学校

- 獣医師・教育委員会による学校巡回訪問指導の実施
年2回 5～6月と12月
管理職、飼育担当者、飼育担当児童生徒の参加
- 獣医師のみによる学校訪問の実施
年2回 11月 2月





3 飼育舎の改善

・A小学校における飼育舎の改善

飼育舎の床全面がコンクリートになっており、ウサギが足を休める場がなかった。飼育舎の中に池があり、糞や尿が入り込み不潔になりやすいこと、湿気の原因となることから、飼育舎の中の池を砂場に直し、足を休める場所を作った。

さらに、個別の生活用ゲージを設け、ウサギたちが生活しやすいようにした。その結果、足を怪我するウサギが少なくなった。

・B小学校における飼育舎の改善

床が低く、水がたまりやすかったので、コンクリートを入れ直し、勾配をつけて排水や掃除をしやすくした。その結果、子供たちが掃除をしやすくなり、清潔な環境を維持できるようになった。

4 学校動物飼育に関する研修の実施

平成14年度から3回にわたって、中川先生による研修会を実施した。ビデオを使った分かりやすい講演は、動物飼育に対する考え方を大きく変えるものとなった。

『動物飼育は、命を大切にす、人を思いやる心を養う、動物への興味関心を高める、愛する心の育成を図る等の効果があるが、これらは、子どもが動物をかわいいと思ってこそ得られる効果である』との講演は参加者全員の心に響いてくるものであった。

学校動物飼育体制に着手する前までは、学校で動物を飼うということについての意義を真正面からじっくり考えることが少なかったように思える。それまでは、生活科や理科の学習対象としての動物飼育としか考えていなかった。そして、校舎から離れた飼育舎で飼育されている動物を、飼育委員会の児童生徒・担当教員が世話をしているというのが多くの学校の実態であった。

そのうえ、教員の多くも、飼育委員会の担当になると大変だ、動物好きな人が担当すればよい等の考えを持っていた。

しかし、中川先生の講演会に参加したり、獣医師の先生方と話し合ったりするうちに、学校動物飼育教育は、生命尊重の心の育成という大変重要な教育の中核を担うものになるという考えを強くしていった。

5 学校動物飼育指針の作成とその啓発

学校動物飼育に対する関わりを深めるうちに、「生き物から学ぶ」「生き物について学ぶ」「生き物のために学ぶ」という視点に基づいた学校動物飼育活動を推進する必要性を認識した。そこで、動物飼育や植物栽培の体験活動を通して、

- ・生命尊重の心、思いやりの心、情操を育む

- ・責任感、粘り強さ、協調性を育む

- ・多くの人に支えられていることを学ぶ

ことをねらいにすえ、学校動物飼育を市の教育行政重点施策に位置づけた。

さらに、学校動物飼育指針を作成し、各学校に配布し、教員一人一人の意識の啓発を図った。

<久喜市学校動物飼育の指針>

学校動物飼育の指針

久喜市教育委員会学校教育課

1 動物飼育に当たって

学校における望ましい動物飼育を行うにあたっては、必要かつ十分な条件を整えることが大切である。

動物飼育のねらいの実現には、まず学校で動物を飼育する意義や目的について、教科や特別活動等における位置づけを明確にし、飼育に対する考え方をしっかり持たなければならない。

次に、それを保護者や学校の近隣及び地域の人々に説明し、理解や支援を得るようにする。飼育活動にこれらの人々の意見を反映させることも考えられる。

動物飼育にあたっては、何よりもこうした取り組みが必要である。そして、これを毎年確認し合い、常に新たな気持ちで飼育を続けることが大切である。

2 動物飼育のねらい

(1)児童生徒に、動物の飼育体験を通して、自然のしくみを知り、命の尊さや思いやりの心を育む。

(2)友達と協力して動物の世話を継続して行うことによって、責任感や協調性を育む。

(3)動物たちと直接触れ合う体験を通して、豊かな心を育む。

(4)地域の方や獣医師との連携を通して、多くの人に支えられていることを学ぶ。

3 動物飼育の考え方

動物を飼育することは、“動物とともに暮らす”ということである。動物は、教材としての「物」ではなく、子供たちにとってのよき「生きた仲間」である。動物の世話をすることは、“命を預かる”ことを意味する。世話をする者は、自分と同じように、動物の体の健康や心の安定を考えながら交流しなければならない。また、望ましい動物飼育をするにはゆとりが必要である。学校や地域の実態に合った動物を、適切な数だけ丁寧に末永く飼育するようにしたい。

6 獣医師による日常の学校支援と飼育方法の改善

○学校の早い対応

それまでは獣医師に診察をお願いすることに予算面などで躊躇しがちであった学校が、動物に異変があるとすぐに相談できる体制ができ、動物の病気や怪我が少なくなってきた。また、ウサギのオスに去勢手術を行い、適正な飼育数を維持することができた。

○飼育方法の改善

獣医師からウサギが大変神経質な動物であること、抱き方には十分気をつけること、えさの与え方、習性等、またニワトリは鶏冠や足の色を注意深く観察すること等の話を伺い、教職員や児童生徒の飼育方法の改善を図ることができた。

○飼育舎の環境の整備

飼育舎の環境整備について、獣医師から専門的なアドバイスを受けることができたため、動物にとって快適な環境になり、のびのびと過ごす動物が増えた。

○感染症への対応

鳥インフルエンザの感染が報道されたときは、獣医師からの的確な指示をいち早く受けることができ、いたずらに恐れることなく、冷静な対応ができた。

○飼育方法の上達

子供達も飼育の仕方が分かり、動物に対して一層の愛情を持って接するようになり、動物の死に接すると涙を流していた。



7 学校の取組

○全校体制の確立

各学校が、管理職を始めとして、全教職員で学校動物飼育に関わる体制を確立した。特に休日や長期休業日における動物の飼育については、全教職員で分担して取組むように

なった。

○親子ボランティア・地域ボランティアとの連携

ある学校では、土曜日・日曜日及び長期休業日に、親子でそろって動物の世話をしてもらおうと、親子ボランティアの制度を立ち上げた。また、地域のボランティアと連携し、休日や長期休業日の動物の世話をを行うようになった。

○獣医師によるゲストティーチャー

小学校の道徳の学習に獣医師を招き、動物との関わりを通した命の大切さについての話をしていただいた。子供たちの聞く姿は真剣そのものであった。

○飼育舎の環境整備

各学校の教職員が、夏季休業日に、柵に囲まれたウサギが走り回れる運動場や、ウサギが眠る飼育箱、寒さを防ぐビニールシートの設置など工夫し、飼育舎の環境整備を進めた。



8 課題

動物をめぐる環境整備は整いつつあるが、以下の点について改善の余地がある。

- ・保護者やボランティアを含めた休業日や長期休業日の飼育体制の確立
- ・生命尊重を基軸とした教育計画の一層の充実

9 おわりに

獣医師と連携した学校動物飼育体制がスタートして2年が経つ。学校動物飼育教育の意義も含めて、動物飼育について学ぶところが多大であった。これも、中川先生の親身なご指導、6人の獣医師による献身的なご協力があつたからこそと大変感謝している。今後も一層の充実を期し、努力していきたい。

(文責：課長補佐兼指導係長 山本千恵子)